

住民健診における心房細動有病率と治療の現状

○西内祐也 桐生理江 鈴木哲 鈴木順造

公益財団法人福島県保健衛生協会

【はじめに】

心房細動は、加齢に伴う最も一般的な不整脈である。高齢化社会の中で有病率は年々増加傾向にあり、2003年の日本循環器学会による疫学調査において年齢による出現頻度の増加や発症因子について報告されている。また、近年増加傾向にある心原性脳塞栓症の原因であり、治療には脳梗塞発症リスクを評価する CHADS2 スコアが用いられ、その有用性が認められている。

今回、当協会で開催している住民健診において心房細動の有病率と治療の現状について検討したので報告する。

【対象と方法】

2021年度に当協会の住民健診において心電図検査を受診した 82,688名(男性 36,614名、平均年齢 70.0±10.6歳、女性 46,074名、平均年齢 68.6±10.8歳)を対象とし、心房細動の出現頻度および問診票から治療率を性別・年齢階層別に集計した。また、未治療者において CHADS2 スコア(高血圧:1点、75歳以上:1点、糖尿病:1点)を用いた集計を行った。

さらに、2017年度から2021年度までの5年間における有病率および治療率を経年比較した。

【結果】

2021年度の心房細動の有病者数は1,601名、有病率は1.94%であった。年代別の有病率は40歳代男性0.29%女性0.00%、50歳代男性0.80%女性0.00%、60歳代男性1.93%女性0.33%、70歳代男性3.89%女性0.99%、80歳以上男性6.40%女性2.52%と男女とも加齢に伴い増加していた。また、男性の有病率は女性と比較し、全ての年代において有意に高率であった。

治療中は989名、治療率は61.8%であった。未治療の601名において、CHADS2スコアが1点の割合は男性14.8%女性13.4%、2点は男性43.7%女性44.8%、3点は男性39.4%女性40.3%で、1点以上は男性97.9%女性98.5%であった。

年度別の有病率は2017年度1.86%、2018年度1.81%、2019年度1.84%、2020年度1.94%、2021年度1.94%、治療率は2017年度55.4%、2018年度60.3%、2019年度61.8%、2020年度61.7%、2021年度61.8%であった。

【考察】

当協会で開催した住民健診における心房細動の有病率は男女とも加齢に伴い増加してお

り、日本循環器学会による疫学調査と同様の傾向を呈し、より高率であることが判明した。福島県では心房細動発症リスクとして認められている高血圧や肥満といった危険因子が全国平均より高いことが要因であると推測される。また、有病率の経年推移はほぼ横ばいであったが、高齢になるほど有病率も高くなることから今後高齢化による有病者数、有病率の増加が考えられる。

未治療者は毎年約 40%存在し、その 90%以上が CHADS2 スコアで 1 点以上であることから医療機関への積極的な受診勧奨が必要である。

【まとめ】

厚労省の令和 3 年度人口動態統計では、福島県の死亡率は脳血管疾患がワースト 6 位、心疾患がワースト 9 位となっている。心房細動が心原性脳塞栓症の原因となることを啓蒙し、循環器専門医への受診勧奨が死亡率の減少につながると考える。今後も疫学調査を進め、県民の健康促進に寄与していきたい。